

下野市の公共交通に関する 各種調査報告

下野市地域公共交通会議

1. 調査報告について P1
2. 住民アンケート調査 P2
3. 高校生へのアンケート調査 P6
4. 企業アンケート調査 P8
5. 路線バス利用実態調査 P10
6. 調査結果と課題 P13

1. 調査結果報告について

下野市では、公共交通に関する課題を把握するために、以下の調査を実施した。

- 住民アンケート調査
- 高校生へのアンケート調査
- 企業アンケート調査
- 路線バス利用実態調査

上記の調査から浮かび上がる主な課題を検討するにあたり、本資料では以下の項目毎に整理を行った。

■ 整理項目

調査名	調査項目	整理項目
住民アンケート調査	買物へ行くときの交通手段、通勤・通学時の交通手段、路線バスの利用状況、デマンドバスの利用状況	自動車への依存と公共交通の利用率の低さ
	利用者が感じる路線バスの改善点、非利用者が路線バスを利用しない理由、路線バスで行きたい場所	路線バスに対するニーズ
	デマンドバスの利用状況、利用者が感じるデマンドバスの改善点、非利用者がデマンドバスを利用しない理由	デマンドバスに対するニーズ
高校生へのアンケート調査	通学手段（全体）、居住地別の通学手段	通学における公共交通利用状況
企業アンケート調査	通勤手段、公共交通に変更する場合の問題点、問題点が解決された場合の公共交通	通勤における公共交通利用の意向
路線バス利用実態調査	時間帯別利用者人数（休日）	利用者数と運行便数のバランス
	乗車人員数（休日）、市内バス停の1日の利用状況（休日）	利用の少ない区間

2. 住民アンケート調査

■ 調査概要

調査目的	公共交通の問題や利用意向、今後の公共交通のあり方等に対するご意見等を把握する。
調査対象	2,000世帯（15歳以上65歳未満：1,000世帯、 65歳以上：1,000世帯）
調査方法	対象世帯に対して郵送配布を行い、郵送回収の他、調査票に添付したQRコードからパソコン・スマートフォン等でも回答可能とした。なお、調査票は各世帯2部ずつ（本人用と家族用）配布した。
調査期間	令和元年8月上旬～8月末
回収数	807世帯（郵送回収 772世帯／QRコード回答 35世帯）※回収率40.4% 1,227票（郵送回収 1,192票／QRコード回答 35票）

■ 調査項目

問1. 個人属性	性別、年齢、職業、運転免許の保有状況、お住まい、世帯人数、世帯の中で運転できる人数、自動車保有台数
問2. 自宅近くのバス停や駅について	1人での外出状況、利用駅、駅までの交通手段、最寄りバス停までの所用時間
問3. 普段の買い物について	買い物に行く頻度、買い物に行く場所、外出時間・帰宅時間、交通手段
問4. 医療機関の利用について	医療機関に行く頻度、利用する医療機関、外出時間・帰宅時間、交通手段
問5. 通勤・通学について	通勤・通学頻度、通勤・通学先の地区、外出時間・帰宅時間、交通手段
問6. 私用について	私用でのお出かけ頻度、行き先、外出時間・帰宅時間、交通手段
問7. 路線バスの利用について	利用状況、利用頻度、利用する路線・バス停、今後の利用意向、改善点、利用しない理由
問8. 鉄道の利用について	利用状況、利用頻度、利用する路線・駅、今後の利用意向、改善点、利用しない理由
問9. デマンドバスの利用について	利用状況、利用頻度、今後の利用意向、改善点、利用しない理由
問10. 公共交通料金について	最寄り駅、「高い」「安い」と感じる金額
問11. 公共交通の利用可能性について	利用するための条件

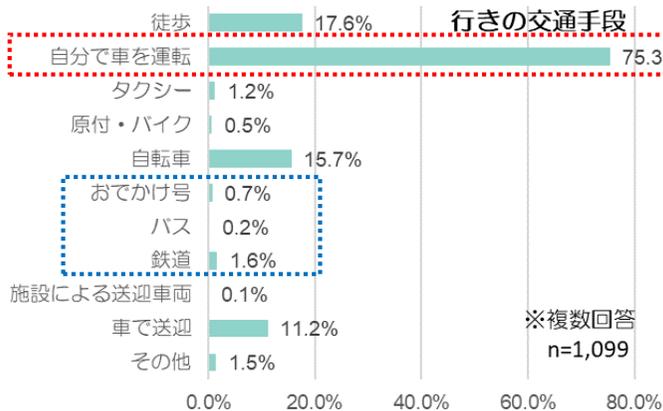
2. 住民アンケート調査

■ 調査結果から見る課題 1

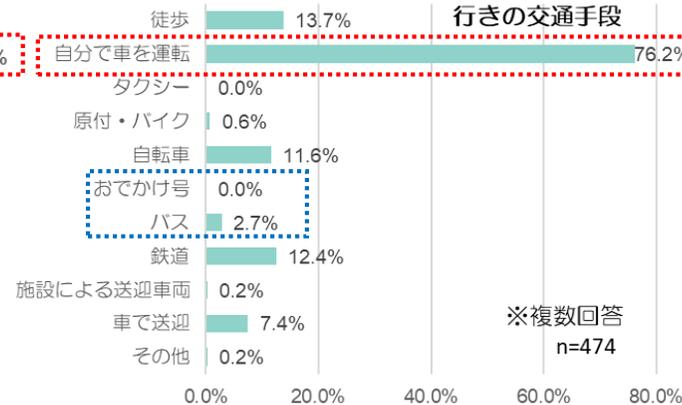
自動車への依存と公共交通の利用率の低さ

- 利用交通手段はいずれの目的でも「自分で車を運転」という回答が一際多く、自動車依存傾向がうかがえる。
- 路線バス、およびデマンドバス（おでかけ号）については、利用率の低さが課題として考えられる。
- また、約2割が「知らない」と回答しており、周知不足も考えられる。

買物へ行くときの交通手段

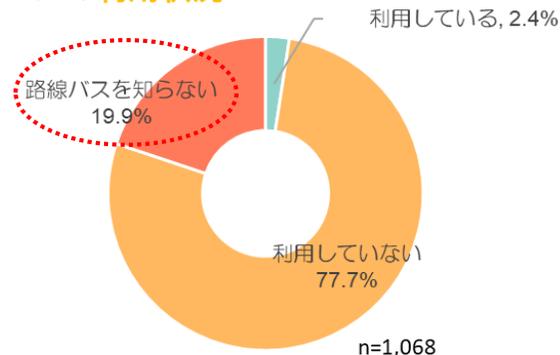


通勤・通学時の交通手段

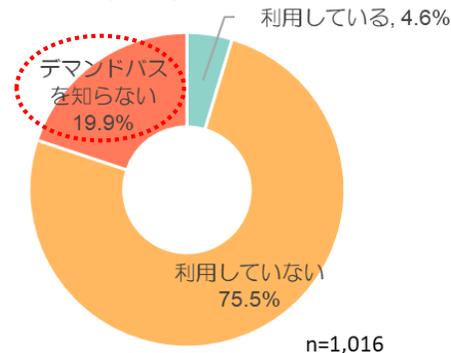


通院時、私用時についても同様に「自分で車を運転」が一際多く公共交通の公用交通（特におでかけ号、バス）は利用が少ない

路線バスの利用状況



デマンドバスの利用状況



利用者の割合が少ないだけでなく、約2割が「知らない」と回答

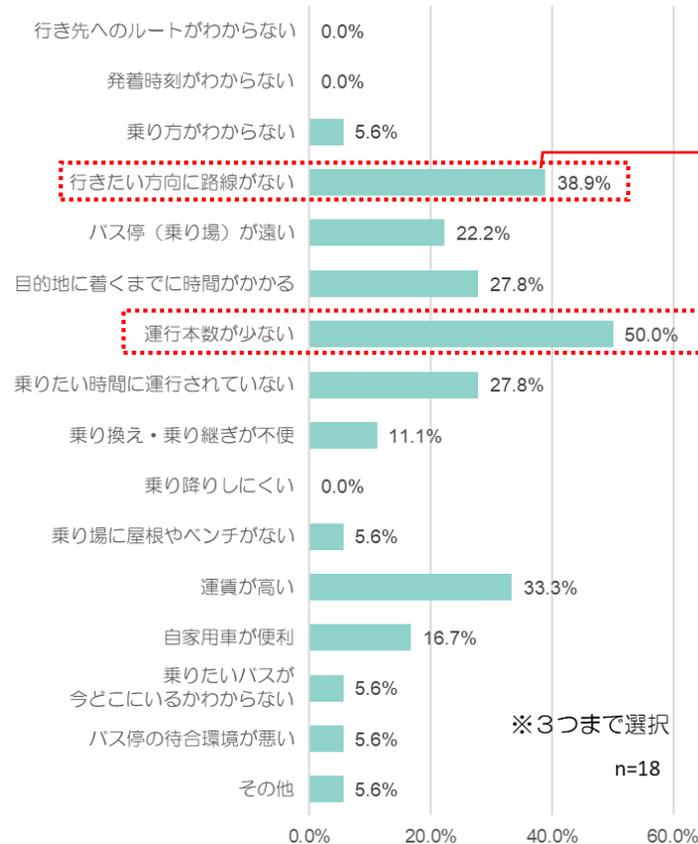
2. 住民アンケート調査

■ 調査結果から見る課題2

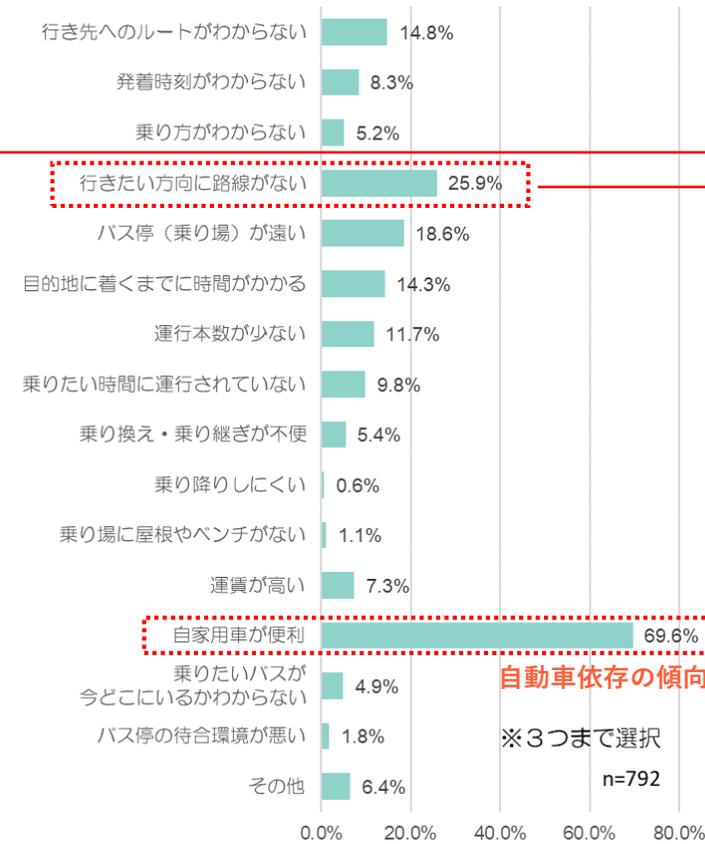
路線バスに対するニーズ

- 利用者は「運行本数が少ない」という意見については、バス利用実態調査の結果も踏まえて需要と供給量のバランスを把握し、検討していく必要がある。
- 路線バスで行きたい場所については、広域連携バスの運行開始により一部は解消される可能性がある。

利用者が感じる路線バスの改善点



非利用者が路線バスを利用しない理由



路線バスで行きたい場所 (多かった意見上位10位まで)

インターパーク (宇都宮市・上三川町)	21票
小山市	14票
小金井駅 (国分寺地区)	13票
イオン小山店 (小山市)	11票
栃木市	10票
おもちゃのまち駅 (壬生町)	9票
おやまゆうえんハーヴェストウォーク (小山市)	9票
自治医大駅 (国分寺地区)	9票
獨協医科大学病院 (壬生町)	9票
壬生町	8票
道の駅しもつけ	8票

壬生方面については、**広域連携バス（ゆうがお号）が令和元年10月より運行開始され解消が期待できる**
また、**小金井駅と小山駅を結ぶ小山市コミュニティバスの周知なども必要である**

自動車依存の傾向

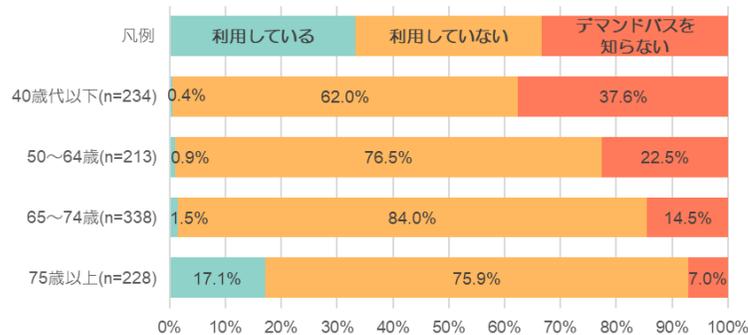
2. 住民アンケート調査

■ 調査結果から見る課題3

デマンドバスに対するニーズ

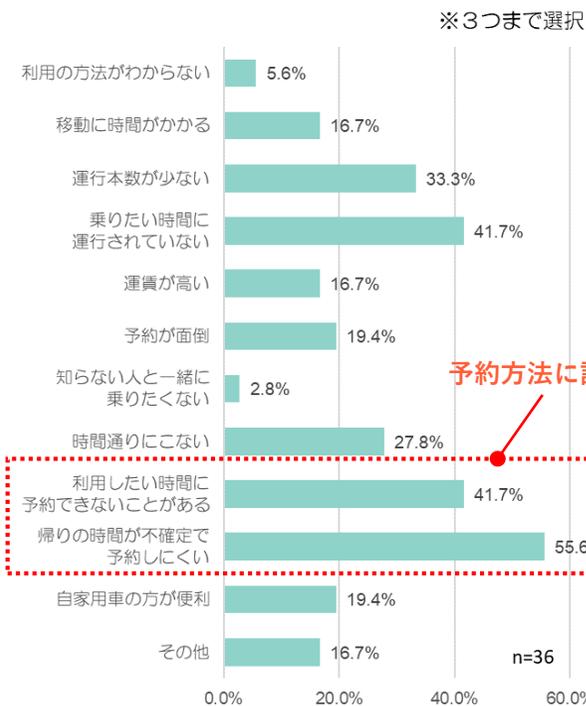
- デマンドバスの利用割合は74歳以下では極めて低く、利用促進が課題として考えられる。
- デマンドバスを知らない、知っているても利用方法がわからない場合も多く、周知不足の可能性はある。
- 利用者、非利用者いずれにとって、予約に関する課題があることがわかる。

デマンドバスの利用状況

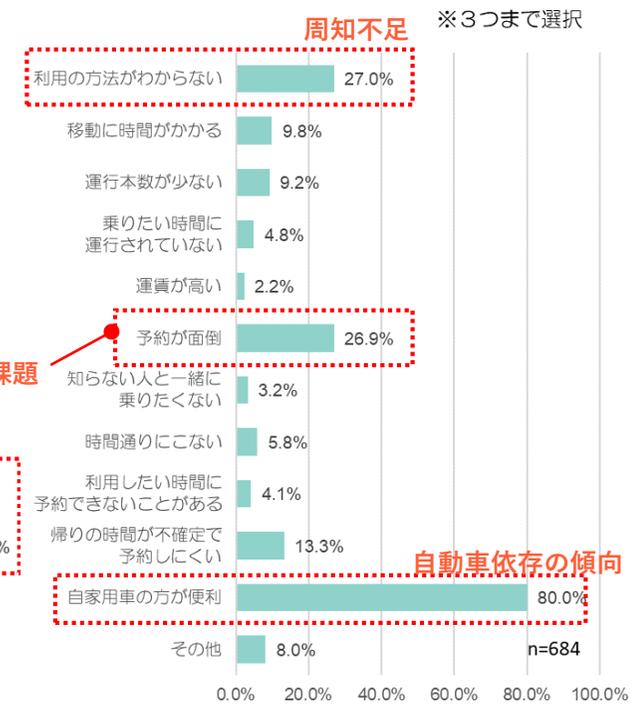


デマンドバスの利用者は75歳以上の高齢者がほとんどであり、74歳以下の年齢の利用割合は極めて低い。また、年齢が低いほど「デマンドバスを知らない」割合が増える。

利用者が感じるデマンドバスの改善点



非利用者がデマンドバスを利用しない理由



予約方法に課題があることがうかがえる。
また、利用方法に関する周知不足の可能性もある。

3. 高校生へのアンケート調査

■ 調査概要

調査目的	高校生の通学実態や公共交通利用状況等を把握する。
調査対象	石橋高校に通う2年生の生徒
調査方法	対象高校に調査を依頼し、教員を通じてアンケートを配布・回収する。
調査期間	令和元年9月中旬～9月末
回収数	215票

■ 調査項目

問1. 個人属性	居住地、出身中学校、学年、部活動への所属状況
問2. 通学手段について	通学手段（往路、復路、雨天時）、利用駅、所要時間、定期券・回数券の利用状況、自家用車での送迎頻度
問3. 通学時間帯	家を出る時間、学校を出る時間
問4. 公共交通についての不満	公共交通についての不満
問5. 公共交通に対するイメージ	公共交通についてのイメージ
問6. 公共交通の利用状況	利用頻度、移動中の会話の経験

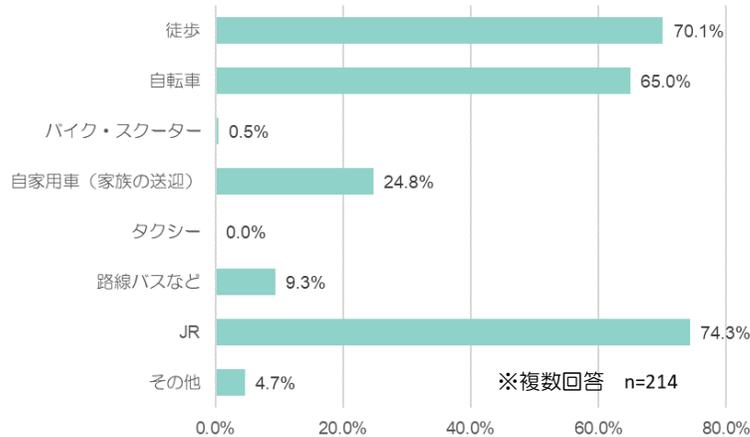
3. 高校生へのアンケート調査

■ 調査結果から見る課題

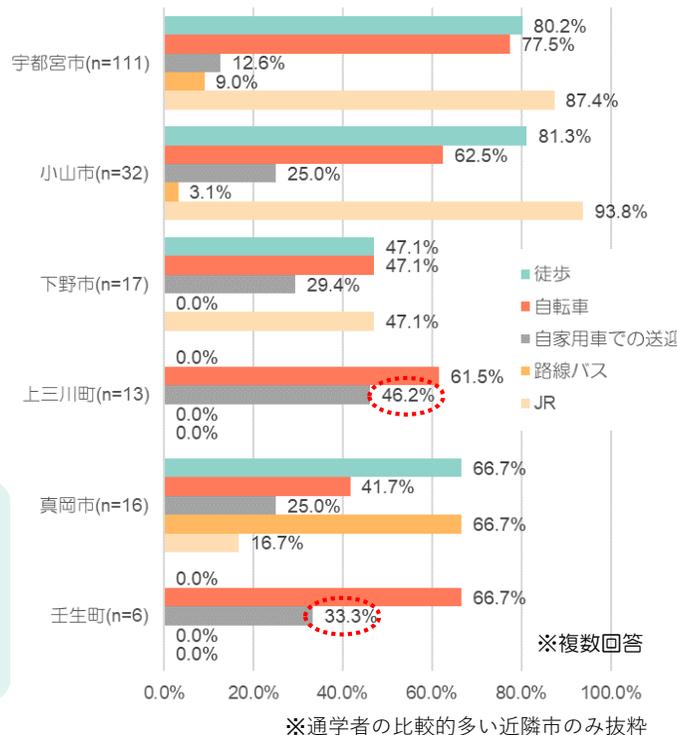
通学における公共交通利用状況

- 徒歩・自転車・JRの利用、また真岡市からは路線バスの利用が多く、公共交通がよく利用されている。
- 上三川町・壬生町からは公共交通がなかったが、広域連携バスが運行を開始した。本数は多くはないため、下校時のみ利用する等、柔軟に利用してもらえよう周知や利用促進を図る必要がある。

通学手段（全体）



居住地別の通学手段



石橋高校は駅から徒歩10分程度の距離であり、JR沿線市の宇都宮市、小山市に住む生徒ではJR利用が多い。
 また、真岡市に住む生徒は路線バス石橋－真岡線があるため、路線バス利用割合が高い。
 一方、上三川町、壬生町はJR、バスともに路線がないため、自家用車で送迎割合が高くなっている。

(参考) 広域連携バス時刻表

ゆきが丘循環線運行時刻表

【平日】 (8 往復)			【土・日祝】 (5 往復)		
JR石橋駅	ゆきが丘公園	JR石橋駅	JR石橋駅	ゆきが丘公園	JR石橋駅
6:15	6:22	6:35	7:25	7:32	7:45
6:53	7:00	7:13	8:00	8:07	8:20
9:55	10:02	10:15	10:10	10:17	10:30
15:50	15:57	16:10	12:25	12:32	12:45
16:43	16:50	17:03	17:05	17:12	17:25
17:20	17:27	17:40			
17:55	18:02	18:15			
19:35	19:42	19:55			

JR石橋駅～獨協線運行時刻表

【平日】 (9 往復)			
JR石橋駅	→	獨協医大	獨協医大 → JR石橋駅
7:23	→	7:45	7:55 → 8:17
8:50	→	9:10	9:25 → 9:46
10:30	→	10:50	10:55 → 11:16
11:56	→	12:16	12:30 → 12:51
13:27	→	13:47	14:00 → 14:21
15:25	→	15:45	15:50 → 16:11
16:50	→	17:10	17:15 → 17:37
17:54	→	18:16	18:21 → 18:43
19:00	→	19:22	19:27 → 19:49

【土・日祝】 (4 往復)			
JR石橋駅	→	獨協医大	獨協医大 → JR石橋駅
8:50	→	9:10	9:20 → 9:40
13:27	→	13:47	14:00 → 14:20
15:25	→	15:45	15:50 → 16:10
17:45	→	18:05	18:15 → 18:35

4. 企業アンケート調査

■ 調査概要

調査目的	市内の企業に通勤する方々の、公共交通の問題や利用意向、今後の公共交通のあり方等に対するご意見等を把握する。
調査対象	下野市内の企業8社の企業主および従業員。
調査方法	対象となる企業に調査を依頼し、担当者を通じてアンケートの配布、回収を行った。 「企業主様用」については代表者の方に記入してもらい、「従業員様用」については従業員の方々に記入してもらった。
調査期間	令和元年9月末～10月中旬
回収数	543票 回収率：企業主70%(10枚配布→7枚回収)、従業員35.5%(1510枚配布→536枚回収)

■ 調査項目

企業主対象	
問1. 通勤に関する取り組み	(交通手段別に) 通勤手当、駐車場・駐輪場の提供状況
問2. クルマ通勤抑制の取り組み	実施状況、取り組み内容
問3. 公共交通での通勤に対する意向	(ニーズに対応した公共交通が運行される場合) 公共交通での通勤に対する意向
従業員対象	
問1. 個人属性	性別、年齢、居住地
問2. 通勤方法	通勤時間、通勤手段
問3. マイカー通勤について	公共交通での通勤に転換する場合の問題点、公共交通での通勤意向
問4. 公共交通について	バスに対する改善要望、鉄道に対する改善要望、公共交通に対するイメージ
問5. 公共交通に関するアイデア等	地域の公共交通や低炭素なまちづくりを行うためのアイデアなど

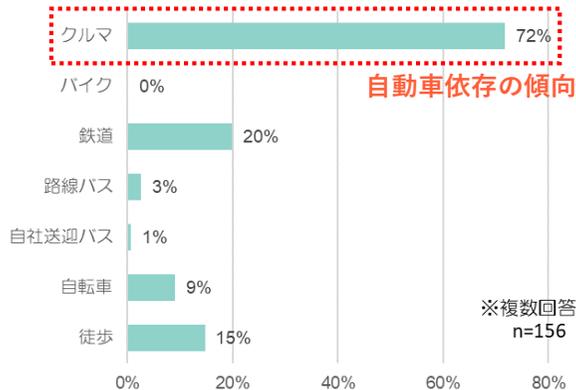
4. 企業アンケート調査

■ 調査結果から見る課題

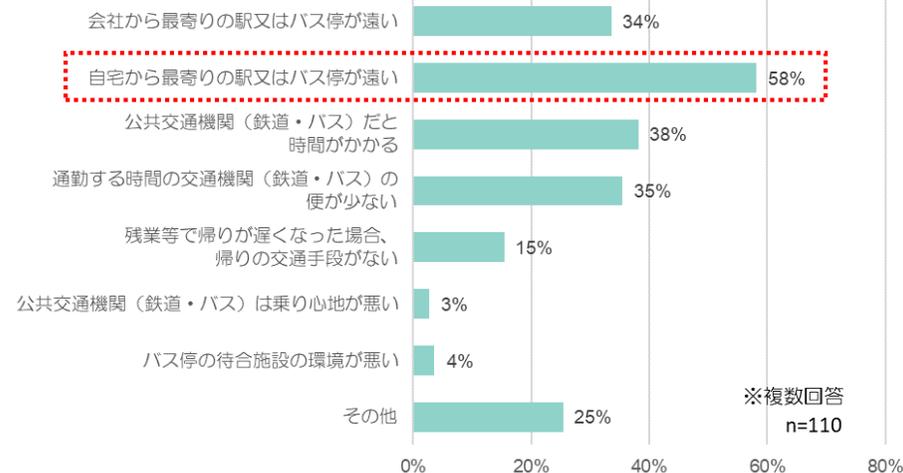
通勤における公共交通の利用意向

- 公共交通に対する問題点が解決された場合には、ノーマイカーデーや飲み会の日には公共交通を利用しても良いという回答が6割いる。駅やバス停が遠い地域に住んでいても、特定の日には、路線バス、鉄道その他、デマンドバス、タクシー等を組み合わせて通勤を行うよう、柔軟な交通行動へと転換を促す必要がある。

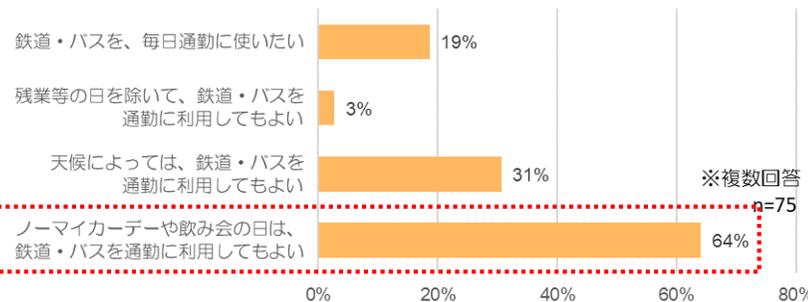
通勤手段



公共交通に変更する場合の問題点 (マイカー通勤の方のみ)



上記の問題点が解決された場合の公共交通通勤への転換意向

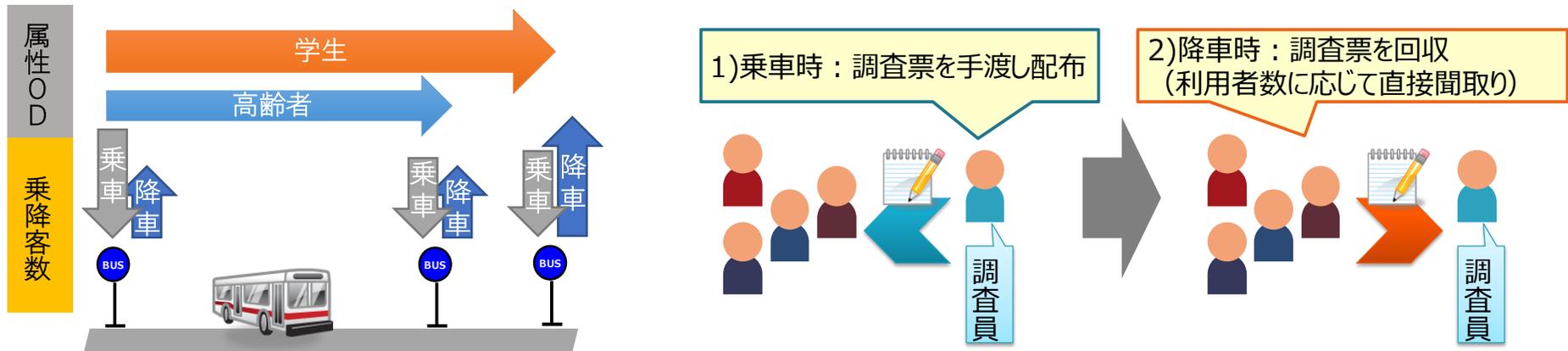


問題点は「自宅から最寄りの駅又はバス停が遠い」という回答が最も多い
解決された場合には、ノーマイカーデーや飲み会の日には公共交通を利用しても良いという回答が6割

5. 路線バス利用実態調査

■ 調査概要

調査目的	公共交通利用者の利用特性や乗降人数、OD等を把握する。
調査対象路線	関東自動車バスの3路線（宇都宮－石橋線、石橋－真岡線、自治医大線）
調査方法	利用者アンケート調査 全便に調査員が乗車し、利用者全員に対しアンケート調査を実施
調査日	休日：令和元年9月8日（日）、平日：令和元年10月16日（水）（自治医大線のみ）



■ 調査項目

利用者OD	乗降バス停（利用区間）
利用者属性	性別、年齢、職業、運転免許の有無
移動特性	移動目的、移動頻度、運賃支払い方法、前後の交通手段
公共交通に対する要望等	公共交通の改善点

5. 路線バス利用実態調査

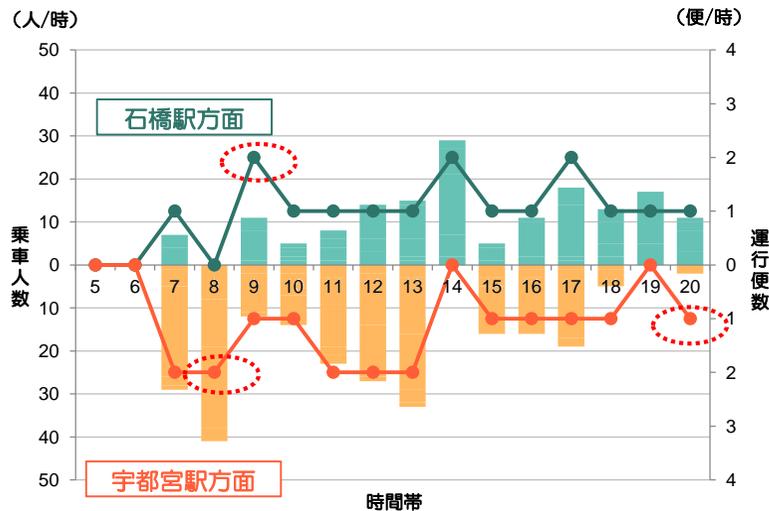
■ 調査結果から見る課題1

利用者数と運行便数のバランス

- いずれの便も、利用者数と運行便数のバランスが悪い時間帯が見られ、適正化の余地がある。

時間帯別利用者人数（休日）

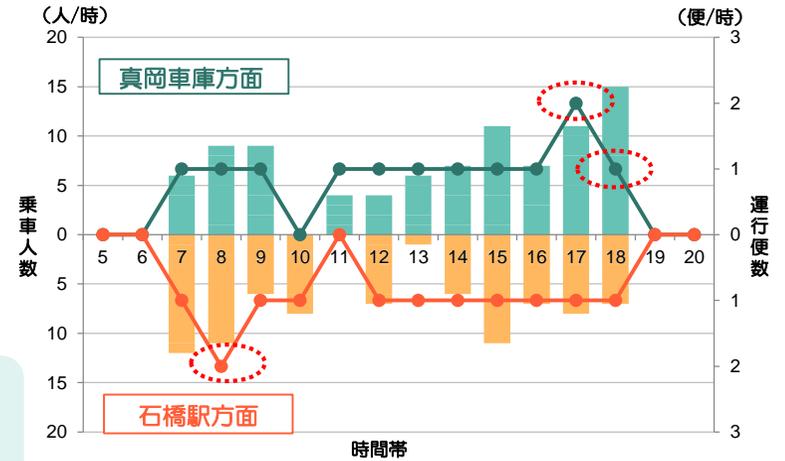
宇都宮－石橋線



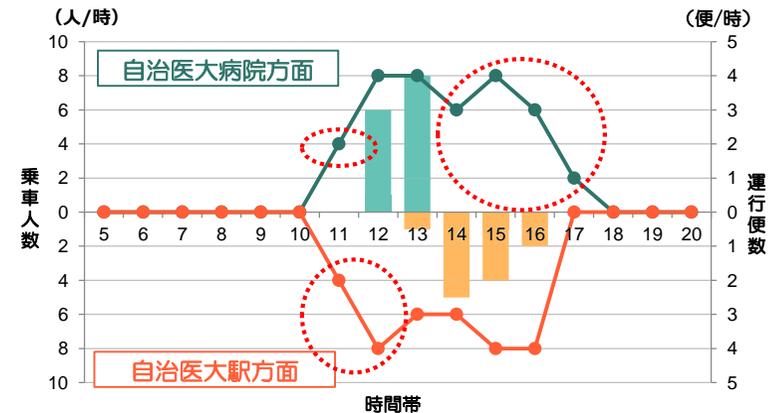
「利用者数が少ないのに運行便数が多い」、もしくは「利用者数が多いのに運行便数が少ない」時間帯が見られる



石橋－真岡線



自治医大線



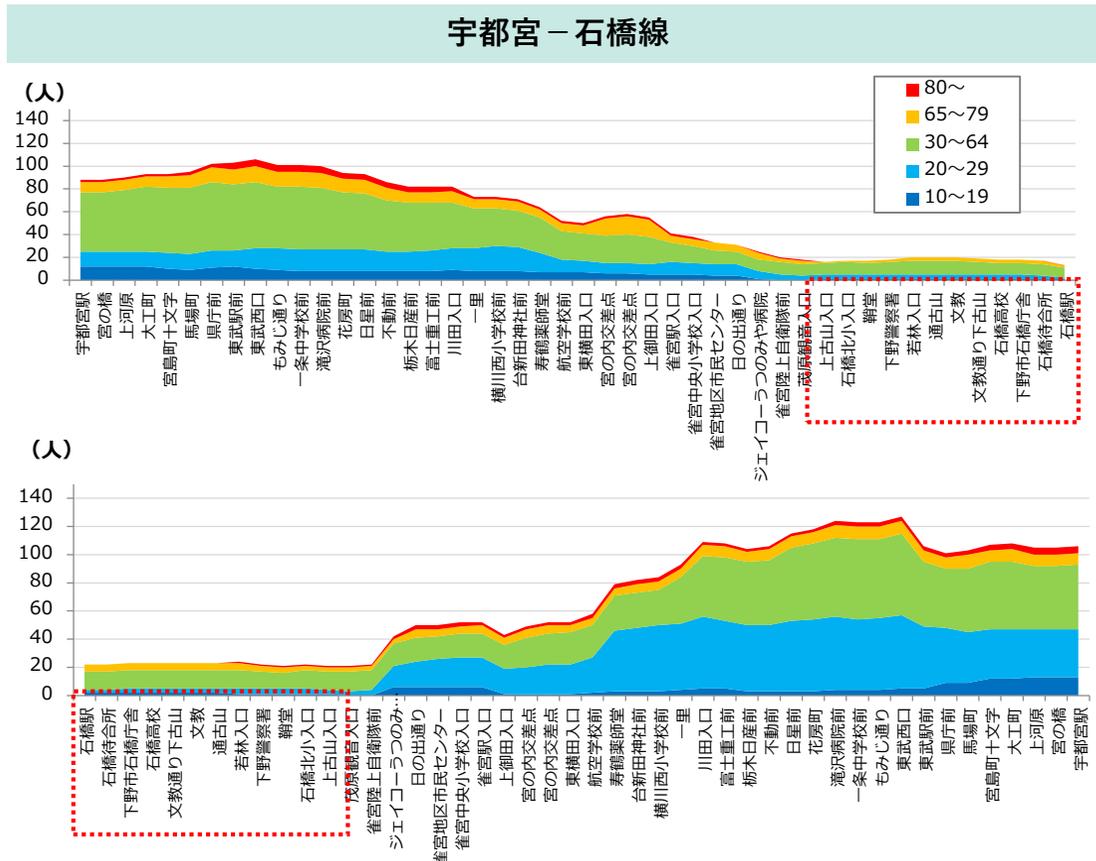
5. 路線バス利用実態調査

■ 調査結果から見る課題2

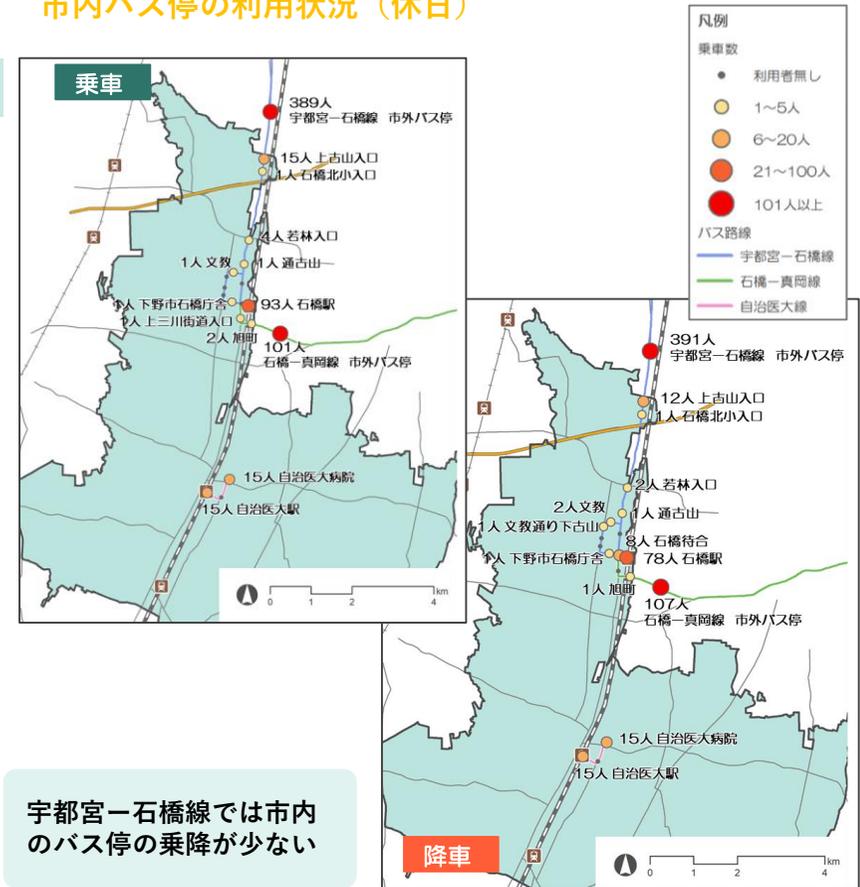
利用の少ない区間

- 宇都宮－石橋線では、市内区間の利用者数が少なく、また全く乗降のないバス停もある。
- JR石橋駅利用者の多くは、自家用車での送迎を交通手段としており、バス利用の促進を図っていく必要がある。

乗車人員数（休日）



市内バス停の利用状況（休日）



6. 調査結果と課題

		調査結果	課題
住民アンケート調査	自動車への依存	<ul style="list-style-type: none"> • いずれの利用目的においても自動車利用が多い。 • マイカー通勤者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢化の進行や低炭素まちづくり等を見据え、公共交通を利用して、日常生活を送れる環境を整える必要がある。
	公共交通の利用率の低さ	<ul style="list-style-type: none"> • 路線バス、デマンドバスの利用者が少ない。 • 路線バス、デマンドバスを知らないという人が2割もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 路線バス、デマンドバスの周知を図り、利用を促進につなげる必要がある。
	路線バスに対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> • 運行本数が少ないと感じている人が多い。 • 行きたい方向に路線がないと感じている人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 需要と供給量のバランスを把握し、検討していく必要がある。 • 広域連携バスや他市のコミュニティバスの周知も行き、適切に移動を確保してもらう必要がある。
	デマンドバスに対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> • 74歳以下では利用率が極めて低い。 • デマンドバスを知らない、知っていても利用の方法がわからず利用していない人が多い。 • 予約に関する課題を感じている人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • デマンドバスの利用方法等について周知を図り、利用促進につなげる必要がある。 • メインの利用者層である高齢者にもわかりやすく、また利用しやすい予約システムを検討する必要がある。
高校生アンケート調査	通学における公共交通利用状況	<ul style="list-style-type: none"> • 上三川町、壬生町からの通学者は公共交通が利用できず自家用車の送迎割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 広域連携バスの柔軟な利用を促す必要がある。
通勤者アンケート調査	通勤における公共交通利用の意向	<ul style="list-style-type: none"> • 自宅から最寄りの駅、バス停が遠いと感じる人が多い。 • 問題が解決されれば特定の日には、公共交通を利用してよいと感じる人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 路線バス、鉄道、デマンドバス、タクシー等を組み合わせた、柔軟な交通行動へと転換を促す必要がある。
路線バス利用実態調査	利用者数と運行便数のバランス	<ul style="list-style-type: none"> • 「利用者数が少ないのに運行便数が多い」、もしくは「利用者数が多いのに運行便数が少ない」時間帯が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> • バス運行便数の適正化を検討する必要がある。
	利用の少ない区間	<ul style="list-style-type: none"> • 宇都宮－石橋線では、下野市内の利用者が少ない。 • JR石橋駅利用は自家用車で送迎してもらっていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 石橋駅からの接続交通として、バス利用の積極的な利用促進を図る必要がある。